

## 令和 2 年度 F D 実施計画書

<b>学部・学科</b>	栄養科学部 フード・マネジメント学科
<b>F D 取り組みへの理念・目標</b>	
<p>教育目標「栄養科学の知識・技術およびグローバルな視点を持って考える態度を基盤とし、健康増進に寄与する食品の研究・開発・製造のための知見に加え、食科学を国内外へのビジネスへつなげる知見を併せもつことで、高付加価値な食産業を創出できる人材を養成」を達成するために、また第 7 次中期総合計画に則し、文理融合型学科の特性を活かした研究を進めるために、FD を通じて教育研究システムを構築する。</p>	
<b>回数、期間、実施日等</b>	<b>実施事項・内容、実施組織、評価項目等</b>
9 月	<p>定例の学科会議開催時または別途の学科打合せにおいて、以下のテーマについて、順次 FD 活動を展開する。</p> <p><u>テーマ：教育ワークショップの実施</u> FD センター、栄養科学科と協力して、教育ワークショップを企画、実施する。</p>
4 月～12 月 (9 回)	<p><u>テーマ：リカレント教育の検討</u> まずリカレント教育に関する政府の検討状況を把握しつつ、特に他大学等での取組事例や企業内での研修・教育事例を収集・分析する。その後、①ターゲット像の明確化、②大学として実践的で体系的な知識・技能の獲得に資する内容と評価のあり方、③継続的な産学連携体制等を検討し、学科として提供可能なプログラム素案を作成する。概ね夏から秋にかけて食品関連企業との対話を進めつつプログラムの具体化を検討する。原則として毎月検討会を開催する。</p>
6 月～9 月 (3 回)	<p><u>テーマ：高校生向けアクティブラーニングのプログラム開発</u> Real Nakamura (オープンキャンパス)、高校への出前授業で、アクティブラーニング型授業の需要が高いことから、全教員が対応できるよう、実践例を持ち寄り、食品科学系（理系）と食品ビジネス系（文系）それぞれの標準プログラムを開発する。</p>
7 月・9 月・1 月 (3 回)	<p><u>テーマ：新カリキュラムへの移行準備</u> 令和 3 年度から新カリキュラムに円滑に移行できるよう、担当領域の教員を中心に、科目間の授業内容調整、担当教員の割り振りを計画的に検討するとともに、入試広報部とも連携してそのバージョンアップした魅力を高校生に訴求する方法を検討する。</p>
4 月～8 月 (8 回)	<p><u>テーマ：初年次教育</u> 昨年度システム化した「大学基礎演習」（単位なし）を学科教員が協力して実施し、新カリキュラムにおける正規科目化に向けて改善点を検討する。</p>

4月、1月 (2回)	プレイスメントテストによる英語の習熟度別クラス編成と補完学習(化学)、プレカレッジ、入学前学習ドリルを引き続き実施し、改善点を検討する
4月～3月 (12回)	多様な学生に対応するため、科目担当教員及び指導主任間で、出席・理解度についての情報交換を強化し、個別指導に加えて、ラーニングサポートセンターとも協力して対応するとともに、初年次教育プログラムの改善策を検討する。
7月	<u>テーマ：グローバル人材育成 (TOEIC、ダブルディグリー、海外食文化研修)</u> グローバル人材育成に寄与する長期留学制度の導入と環境整備：学生の留学報告会(留学を経験した学生)
10月・3月 (2回)	学科創設後4年間の語学教育、ダブルディグリー制度、海外食文化研修を含む海外研修の共通理解を深めて、新カリキュラムにおけるグローバル人材育成の課題を検討する。
8月・2月 (2回)	<u>テーマ：産学連携授業</u> 「食品ビジネス戦略論」「食品企業経営戦略論」「食品開発論」「国内食文化研修」「食品ビジネスインターンシップ」等、各種産学連携授業について、現状と課題の共通認識を深める。
5月・7月・2月 (3回)	<u>テーマ：インターンシップ・就職支援</u> 連携推進部と協力して、1期生の就職活動状況について情報共有するとともに、インターンシップ開拓を含む就職支援のあり方について意見交換する。
6月・10月 (2回)	<u>テーマ：卒業研究・研究ゼミ</u> 卒業研究のとりまとめに向けて、各ゼミの多様性、自主性を尊重しつつ、意見交換により共通認識を醸成する。
5月(1回) 2月(1回)	<u>テーマ：研究活動</u> 学科プロジェクト研究の進め方について検討する。 「栄養科学部・食物栄養学科合同研究大会」、研究教育業績集を通じて、教員相互の研究情報交流を図る。
5月～6月	<u>テーマ：公開授業</u> 改訂された公開授業実施要領に基づき、公開授業を積極的に活用する。
10月～12月	<u>テーマ：資格試験への対応</u> HACCP管理者認定のためのワークショップ実施(学会主催：時期未定)、食品表示検定試験(11月)、(専門)フードスペシャリスト資格認定試験(12月)に向けて、情報共有し対策を検討、実施する。